



## 動物とのきずな

一年 古谷拓都

私の祖母の家には十七年間生きているシェリーというシェットランドシープドッグがいます。十七年というと、犬の寿命で考えると、すごく長生きだと思います。

シェリーは、お母さんが結婚する前に祖母の家にやって来ました。シェリーは、元々腎臓が悪く、特別食を食べていました。精神的な弱さも加わり、よく吐いていたので、通院は欠かせませんでした。最近では、足腰の弱さも出てきているので、十日おきに点滴をしに通院しなければならなくなりました。それでも、食欲旺盛です。しかし、歯も弱いので、すごく食べづらそうです。最近のお気に入りは温キャベツとふかしもです。食べやすいように細かく刻んであげています。温キャベツを細かく刻まずにあげてしまったため、温キャベツが胃の粘膜にくっついてしまい、吐いてしまうということがありました。

シェリーが若かったころ、よく一緒に一時間くらい散歩をしていました。土手を歩いている時にくつつき虫が生えている草むらに入っていてしまい、シェリーの体にたくさんのかくつつき虫がついてしまったことやリードを持って一緒に走ったことが、とても心に残っています。でも今は、足元がふ

らつくので、家の周りをウロウロするだけになってしまい、一緒に走ることができなくなってしまいました。しかも、散歩の時間も十分から十五分くらいになってしまいました。私もシェリーと散歩に行く量が少なくなってしまい、すごく悲しく思います。シェリーの体は、弱ってきていて、目は片目、瞳が白くなっていて見えなくなったり、耳も時々聞こえていなかったりするので、しょうがないかなと思っています。本当は、シェリーと楽しく散歩がしたいです。一緒に走ったことを思い出すとさらに悲しくなります。

私は、動物も人間と同じで命を持っているので、いくら体が弱っていても、その命は大切にしなければいけないと考えています。最後の最後まで、その命と触れ合い、その命と「きずな」を深めていくことが大切だと思います。私はシェリーに最後まで寄り添い、命の大切さを感じたいと思いました。このように、動物は一つの命です。大切に守っていくために、一人一人が愛情を込めて育てていくことが大切です。「きずな」を深め、命を大切に守っていききたいです。